

総合的な学習の時間教科論

総合的な学習の時間部

1 教科等の本質

平成29年告示の学習指導要領の中で、総合的な学習の時間の目標は「探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す」とし、以下の三つの資質・能力を示している。

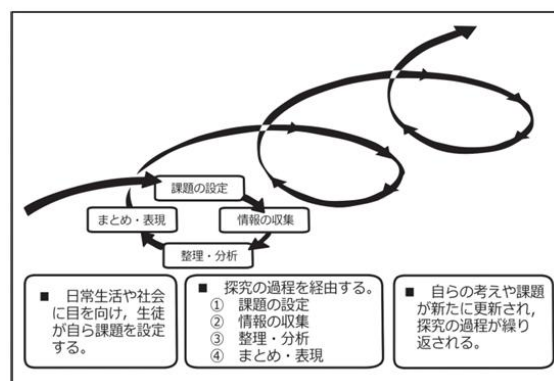
- (1) 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようにする。
- (2) 実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
- (3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

総合的な学習の時間では、問題解決的な活動が発展的に繰り返されていく過程を総合的な学習の時間の本質と捉え、中心に据えられている。そのため、「探究的な学習における児童・生徒の姿」として、右図のような一連の学習過程が小・中・高等学校のどの学習指導要領解説でも示されている。このような学習過程を通して、物事の本質を探って見極めようとする一連の知的営みが探究的な学習である。

桑原（2020）は、自身の研究の中で、「総合的な学習の時間」が持つ価値や意味こそが、シティズンシップ、すなわち市民性または市民的資質の育成であるとしている。研究全体論にもあるように総合的な学習の時間においても学校教育活動の中でこそシティズンシップを発揮し、多様な他者と課題を解決していくことで「よりよい未来」を創る基盤である力を育んでいきたい。そのために、各教科等で育成する資質・能力を相互に関連付けながら、探究的な学習の過程を繰り返す中で、新しい未知の課題に対応するための探究が高度化し自律的に行われることが重要になってくる。右表のような、高度化・自律化した探究を実践できるようになることは、総合的な学習の時間の目標にあるような、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくことにつながると考える。

以上のことから、総合的な学習の時間の本質を「探究的な学習の過程を繰り返し実践していく中で、探究を高度化・自律化させていくこと」とした。探究的な学習の過程の中で「よりよく課題を解決するためにはどうしたらよいか」という教科の本質的な課題に取り組む上で、探究を高度化・自律化する力が育まれると考えた。

探究的な学習における生徒の学習の姿



高度化した探究	①探究において目的と解決の方法に矛盾がない(整合性)
	②探究において適切に資質・能力を活用している(効果性)
	③焦点化し深く掘り下げて探究している(鋭角性)
	④幅広い可能性を視野に入れながら探究している(広角性)
自律化した探究	①自分にとって関わりが深い課題になる(自己課題)
	②探究の過程を見通しつつ、自分の力で進められる(運用)
	③得られた知見を生かして社会に参画しようとする(社会参画)

今、求められる力を養える総合的な探究の時間の展開(参照学校図)(令和5年3月)

2 総合的な学習の時間での四つの学習活動

総合的な学習の時間において、四つの学習活動を整理したものが以下の表である。

ためし	○明らかになった探究的な学習における児童・生徒の学習の姿考えや意見などを まとめ・表現する時間
みがき	○課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けたり情報を収集したりすることで 課題に関わる概念を形成する時間
さぐり	○日常生活や社会に目を向けた時に湧き上がってくる疑問や関心に基づいて、自 ら課題を見付け探究的な学びに向けた見通しをもつ時間 ○新たな課題を見付け、更なる問題の解決を始めるといった学習活動を発展的に 繰り返そうとする時間
つなぎ	○情報を整理・分析したり、知識や技能に結び付けたり、考えを出し合ったりし ながら問題の解決に取り組む時間 ○学習に協働的に取り組み、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていく 時間

四つの学習活動と照らして、探究的な学習の過程を意識させ、見通しをもたせることで、探究を高度化・自律化させていくことを支援する。探究的な学習の成果をまとめた
り、表現したりする「ためし」に向けて、1 授業や単元の見通しをもつ「さぐり」を行
い、その際、必要に応じて知識及び技能や情報を収集する「みがき」の時間をとる。ま
た、学級全体やグループごとに、情報を共有したり、お互いの考えを吟味したりするな
どの協働をするための「つなぎ」を設定する。一連の学習活動を通して、新たな課題を見付
け、更なる問題の解決を始める「さぐり」も展開されるだろう。このような学習活動を繰
り返していく中で、学んだことを自己と結び付けて振り返り、これからの問題の解決の仕
方や自己の生き方を考えていく「つなぎ」が行われ、探究を高度化・自律化させていくこ
とができるだろう。

3 引用・参考文献

文部科学省(平成29年告示)「小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」

文部科学省(平成29年告示)「中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」

文部科学省(平成30年告示)「高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間編」

文部科学省(令和5年3月)「今、求められる力を高める総合的な探究の時間の展開」

白井俊(2025)「世界の教育はどこへ向かうか-能力・探究・ウェルビーイング」中
央公論新社